



## 楽しかった東京「金蘭会」同窓会

「金蘭会」は東京における島根女子師範卒業生の同窓会です。このたび招かれて本部事務局幹事の塩川が出席してきました。

5月10日にホテル、フロラシオンで金蘭会の同窓会がありました。皆さん、とてもお元気で、私のほうがいっぱい元気をもらいました。本を書かれた貴女、すばらしい刺繍を見せてくださった貴女、きれいな声で独唱された貴女、摘んだ花をしおりにしてくださった貴女、書道の大家で、イベントをされる貴女、歯切れのよい司会をして会を進行される貴女、シャンソン歌手のような貴女、戦時中、師範学校の掃除で宿舎をピカピカにしてその頃のことを、生き生きとお話くださった貴女、とても・十歳とは思えないような若々しくしとやかな貴女、いつも帽子がお似合いでおしゃれな貴女、等々、本当に皆さん女性の鏡のような、すばらしい方ばかりでした。隠岐や安来、浜田の方が多く、「なぜ、東京に出られたか。」と聞きますと、「教育の最前線で働きたかった」とお答えくださったのは、隠岐出身の方で、60歳までつとめられたそうです。



その後、朝ドラの「だんだん」について、話は、弾みました。「あの方言は、大げさ過ぎる。」と私がいいますと、自分たちの所は、あれぐらいで、みんな話していたと教えてくださいました。島根の景色が美しく、また懐かしくてよかったということです。ホーランエンヤに帰られた方もいらっしゃいます。

今は、島根を離れ、東京やその近辺に暮らしていらっしゃる方々のエネルギッシュな生き方に、私も負けずにがんばろうと思いました。一週間、スケジュールを決めて動いてる貴女、「美しいことのみ考えて生きること」を教えてくださいました貴女、どんな逆境にも負けずそれなりに生きることをご教授くださった貴女、どこにいようと戦後の島根の心意気を見せて東京の教育委員会に島根師範ここにありと示してくれたこの先輩方に心より、エールをおくります。

どうぞ、いつまでもお元気で……。 (文責 塩川はるみ)

